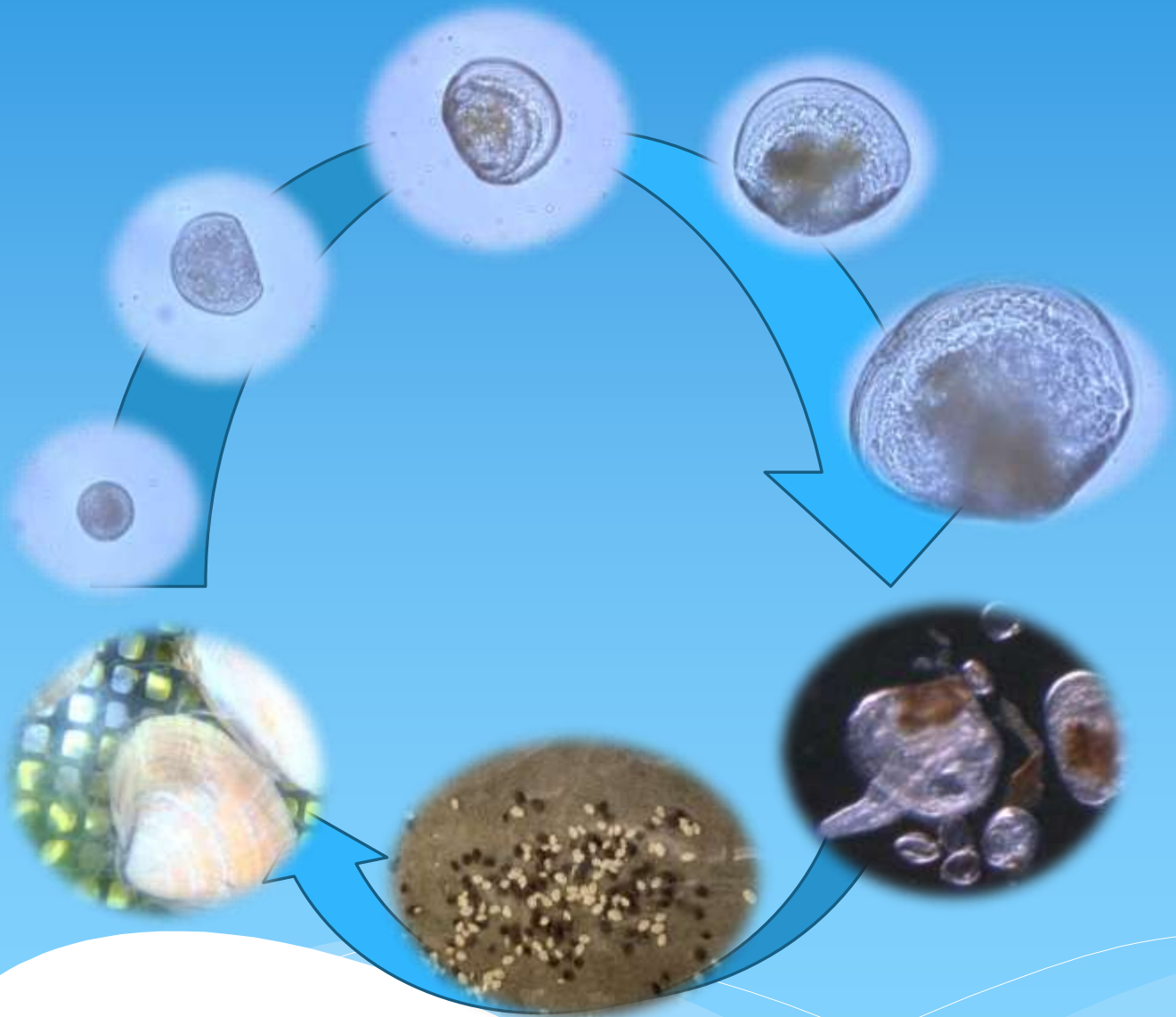


バカガイ 種苗生産概要



2018年4月12日
栽培水産試験場
栽培技術部
川崎 琢真

種苗生産 基礎情報

①産卵誘発

- * バカガイの人工採卵が可能な時期は、日本海は7月、太平洋側で6月。
- * 日本海側のバカガイの産卵誘発温度は25度程度。飼育水温18度程度。
- * 産卵誘発は、水温調整＋紫外線照射海水で2－4時間で反応。個別誘発し、オスが先に放精した場合は、少量の精子希釈海水をメス水槽に入れると、放卵を促すことができる。
- * 殻長5-7cmのメス1個当たり300-800万个を産卵。小型の方が産卵誘発に反応しやすい。



赤いのが卵巣

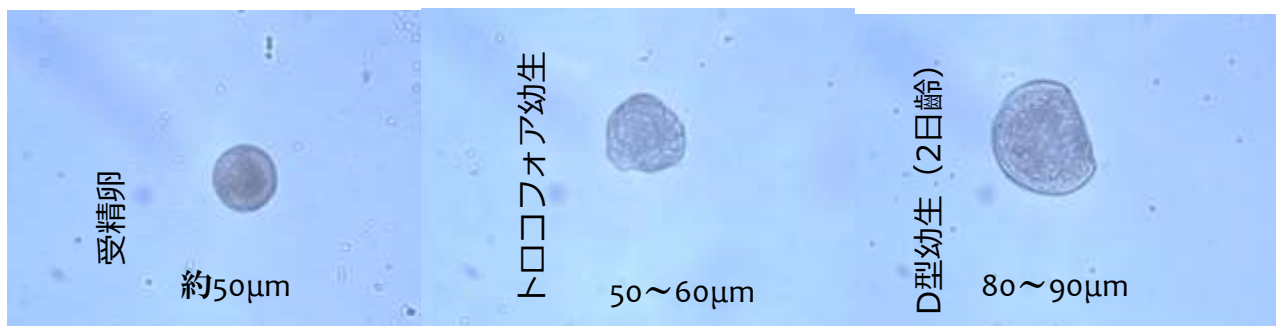


黄色いのは精巣

種苗生産 基礎情報

②受精→卵管理

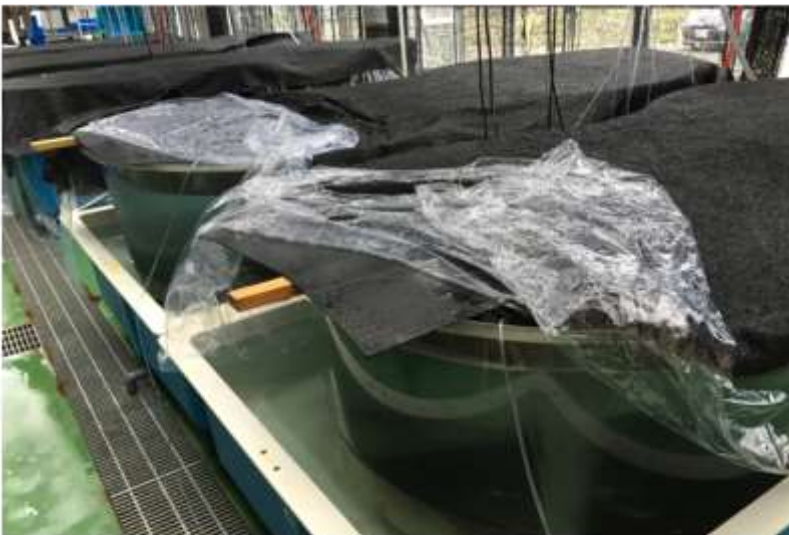
- * 受精用の水槽は、200－1トンのパンライト水槽などを使用。水温25度。エアレーション入。
- * 受精は、過剰な精子を入れないように注意。イメージとしては、1トンの卵管理水槽にかすかに白く濁った精子海水を100 mlで十分。
- * 受精後24時間でD型幼生になっていれば成功。計数を行い、1ml当たり5個以下(可能であれば1個/mL)程度に調整。



種苗生産 基礎情報

③幼生飼育

- * 浮遊幼生の飼育は、可能であればウォーターバス式のペア水槽を使用。
- * 水温25度設定、2-3日に一回水槽入れ替え。
- * 給餌は、受精後2日目から、パブロバルセリ(培養品)を1000-3000細胞/ml・日で給餌。殻長が90umを超えたら、濃縮キートセラスを2000-10000細胞/ml・日給餌。
- * 14-20日で着底期である殻長200umに到達。基本的には生残は良い。

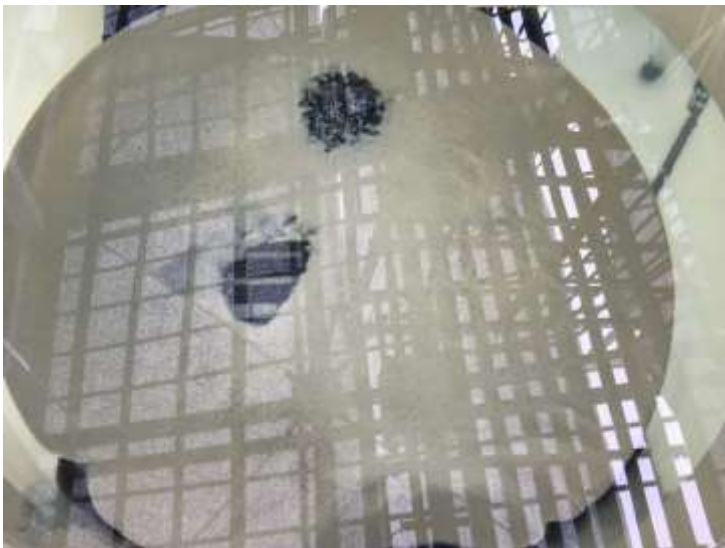


ウォーターバス+温室型ペア水槽を使用

種苗生産 基礎情報

④着底

- * バカガイは、着底期に基質が必須。粒径1mm以下の砂を2-3cmの厚みでひいた着底水槽が必要。水温25度。
- * 平型水槽などでも着底可能だが、着底面積1平方センチメートル当たり、着底期稚貝を1個以下で入れることが望ましい。
- * 着底飼育中は、無換水、濃縮キートを水1トン当たり1万-2万細胞/mL・日給餌。1週間で肉眼で見えるようになり、2週間程度で殻長さ2mm程度になる。



パンライトに砂を引いた例



2週間後の稚貝

種苗生産 基礎情報

⑤稚貝飼育

- * この部分は試験場でもまだ検討中。
- * バカガイの稚貝は非常に成長が早く、成長に伴い餌が不足し、5mmまでに大量死が起こることが非常に多い。
- * もし可能であれば、1平方メートル当たり1000個以下の収容数とし、濃縮キートセラスの給餌量を1日5-10万細胞/mL程度まで増やす。金がかかります。
- * 基本止水で管理し、殻長が5mmを超えたら速やかに沖出しをすることをおすすめします。

稚貝(飼育下)

